

## 2011年 学長年頭挨拶

新年おめでとうございます。良い年を迎えられたことと存じます。新年の初めにあたりご挨拶させていただきます。

昨年は開学60周年を迎えました。60周年を期に大学の歴史や将来の発展について皆様と一緒に考えました。琉球大学は現在7学部よりなる総合大学として発展いたしています。国内の地方大学は様々な点で特色を出し、生き残りをかけた多くの努力と苦勞をしているところです。私共の琉球大学は、沖縄の歴史、文化、社会、経済など地域のこれまでの蓄積を重視し、さらに特色のある自然環境も研究対象とし、業績を積み上げ、他の国立大学にはない特色ある教育研究を行っています。

大学は新しく第二期の中期目標・中期計画が始まりました。この目標計画は、各部局の将来計画に立脚し、大学の将来進むべき方向を示したものになっています。大学は以前から地域性と国際性を目標に掲げていますが、再三申し上げていきますように琉球大学の地域性と国際性は他の地方の国立大学のそれとは大きく異なり、豊かな海で繋がる地域の中心に位置して発展してきた歴史、文化、自然などに根差したものです。そして、それらは国際沖縄研究所、島嶼防災センター、さらに分子生命科学センターと合併し新しい全国共同利用施設となった熱帯生物圏研究センターなどの特色ある研究活動や各学部の教育・研究活動に表れています。それらの活動により現在14の特別教育・研究経費いわゆる概算要求で研究費を獲得しています。さらに昨年末には4件の研究設備を獲得いたしました。これらはいずれも私共の大学の特徴・独自性を示すものになっています。

法文学部は、人の移動や様々な研究活動で成果を挙げ、国際沖縄研究所が中心になり教育学部とも協力し、国際雑誌 International Journal of Okinawan Studies の発行を始めました。

教育学部は、優れた学校教員の養成や児童生徒の学習意欲の向上のための努力をされています。教育職大学院や生涯学習教育などの問題に今後を見据え色々の取り組みを行っておられます。

理学部は、COE で多くの成果を出された研究のさらなる発展、そして琉球大学の特色ある教育研究の基礎となる研究を行っておられます。基礎となる研究を盛んにする必要があります。

工学部は、大学院博士前期課程の3専攻の入学定員増を行い、益々の発展が期待されます。この組織整備により、優れた人材を地域社会に送り出し、産業の活性化に重要な役割を果たします。島嶼防災センターも概算要求で研究費を獲得し成果を挙げています。

農学部は、大学院農学研究科を改組し、亜熱帯農学研究を推進することや発酵科学さらに「女性が起こす農からの産業」シンポジウムなど意欲的な取り組みをされています。

医学部は、大学院部局化や沖縄県地域医療再生計画と連携し、「シミュレーシ

ョンセンター」の整備や県からの寄附講座の設置など地域貢献を行っています。

昨年は、そのほかに男女共同参画室の設置や概算要求でジェンダー学に関する法文学部の研究が5年継続事業として採択されるなど期待が寄せられています。さらに昨年末から琉球大学男女共同参画宣言も行う準備がされています。

他にも多くの優れた活動が御座居ますが、そのなかの1つを御紹介しますと、APACの保健公衆衛生会議の会長に医学部保健学科の教授が昨年より就任し、沖縄を中心とするアジア・太平洋地区の保健衛生活動を指導しておられます。

大学の運営費交付金は大きく減らされ、全国の大学は大変困っています。しかし、琉球大学は地域に貢献する大学として、他の国立大学に比べ多くの特色を出し、地域に無くてはならない大学として発展しています。今年も、学部、大学院さらに附置施設の整備、定員増の要求などを行い、教育・研究の充実を計りたいと思います。

今年も皆様と一緒に活躍し、我々の大学の存在意義を示したいと思います。その為には教職協働が不可欠です。

60周年の還暦後の新しい年を実り多い発展の一步にしたいと考えています。

平成23年 1月 4日

琉球大学長  
岩政輝男